

目指す学校像	希望にあふれ みんなに愛される学校
--------	-------------------

重点目標	1 ICTの活用による個別最適な学び、探求的な学びの推進《実社会で新しい価値を生み出す力の育成》 2 安心・安全で活気ある教育活動の推進《6つの行動目標の励行、あいさつ運動の実施》 3 「真の学力」を育むための教育活動の推進《特色を生かした教育活動の推進》 4 ICTを活用した授業改善《教職員研修の充実》
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標				年度評価			実施日令和7年2月12日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○落ち着いた学習に取り組める児童が多い。令和6年度の全国学力学習状況調査の児童質問紙の項目を見ても「勉強は大切」「授業の内容はよく分かる」の項目が継続して高い結果となっており、学習に対して意欲と目的意識をもって学習に取り組んでいる児童が多い。 ○令和6年度の全国学習・学習状況調査の正答率は、国語・算数ともに市平均を上回っている。 <課題> ○国語においては、「既習した漢字」及び「主語と述語の関係」の問題について他の問題に比べて課題が見られた。 ○算数においては「単位数」の問題について他の問題に比べて課題がみられた。 ○全体的に「思考・判断・表現」の問題の平均正答率が低かった。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・SDGsの実現を目指した谷田小学校「総合的な学習の時間」の創出	①スクールダッシュボードを活用し、個々の児童の学習データの蓄積を活用・分析し、個々に応じた学習支援を継続して行う。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③学校課題研修の一環として、学力状況調査結果の分析を組織的に行い、授業実践に反映させていく。	①スクールダッシュボードを活用し、児童個々に応じた学習支援に取り組むことができたか。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できたか。 ③調査結果の分析や研修で得た知見を踏まえ、授業改善の視点、手だてを学年ごとに設定することができたか。					
2	<現状> ○児童は全体的に落ち着いており、あいさつがよくできる。家庭での生活習慣の定着についてはおおむねよいものの差がある。 ○昨年度、学校内でのけがの報告は783件、そのうち医療機関を受診したけがは40件であった。 <課題> ○学校でのルールづくりについて、児童の主体的な活動によってよりよいものにしていくことが必要である。 ○あいさつについて、学校内でのあいさつと学校外でのあいさつに差が見られることが課題である。	・「その日のことは、その日のうちに」の共通理解と徹底 ・安心・安全で活気ある教育活動の推進	①生活目標の後に一人一台端末を活用したアンケートの実施や心と生活のアンケート、なかよしアンケートの定期的な実施と結果の分析を行い、特に対象となる児童には、速やかに面談を行う。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用し、教職員全体で児童の状況を把握、分析し、適切なタイミングで、組織的に支援、相談を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80パーセント以上となったか。 ②アンケートの結果を受けて児童との面談を実施し、児童一人の状況を継続的に把握できる記録を蓄積する。また、毎朝の児童の状況をICTを活用して、担任・養護・管理職・SCといった複数の目で毎日見守っていく。					
3	<現状> ○学校運営協議会で、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。 <課題> ○学校運営委員会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域などに広め、地域の人々と共有できるようにする。	・校庭の芝生を活用した特色ある教育活動の充実 ・学校運営の改善と児童生徒の健全育成に向けた谷田小学校コミュニティ・スクールの実施	①芝生を活用した行事や地域を巻き込んだ行事を実施し、児童が学校・地域を大切に感じる気持ちを育成する。 ②様々な行事等で芝生を活用し、ホームページや学年便り等で、家庭にも周知する。	①芝生活用委員会を中心に、芝生の活用について検討し、継続的に実施するとともに新たな取組を模索する。 ②ホームページや学年便りで、芝生を活用した行事の情報を発信し、家庭、地域と共有する。					
4	<現状> ○学校課題研修で、ICTの活用について具体実践を積み重ねてきた。 ○高学年に加えて中学年でも教科担任制の実施を開始した。より深い教材研究を行い、授業を行っている。 <課題> ○ICTの活用について、学習に適した活用の仕方、効果的な活用をしていく必要がある。	・学校課題研修を中心とした学びの自律化・個別最適な学習の実現のためのアクション	①国語科を中心として授業実践を行う。全学年で研究授業または公開授業を実施する。 ②スクールダッシュボード等のICT活用したデータの利活用についての成果検証を行う。児童アンケートを実施し、課題解決に向けた手立てを考察する。	①授業を担当している全教員が、授業実践を公開できたか。 ②教育データを活用した授業実践を確実に実施することができたか。児童アンケートから課題を見出し、その解決に向けた手立てを示すことができたか。					